

繊毛運動からみたエアロゾル療法

福井医科大学 耳鼻科

坪川 俊 仁

各種の抗生剤や抗アレルギー剤がネブライザーとして使用されているが、主要薬剤及び溶解するための基剤の繊毛運動に対する影響は無視出来ない。そこでエアロゾル療法に使用される薬物の至適濃度を繊毛運動から検討した。検討した薬物は、アミノ配糖体系抗生剤（GM, AMK）、ステロイド（デキサメタゾン）、去痰剤（アレベール、ムコフィリン）、抗アレルギー剤（ブロンカスマ・ベルナ、臭化イプラトロピウム）などである。

さらに、繊毛運動の低下、促進が薬剤吸収率や臨床効果と如何に関連するか、などが検討課題である。